
第5章

「税って何かな？」 パワーポイント版

I 「税って何かな？」 パワーポイント版の使用にあたって

▶ はじめに

日税連が発行する『租税教育副読本「税って何かな？」』のキャラクターを使用したパワーポイント教材です。主な対象は小中学生ですが、高校以上も使用可能です。また、副読本を用いながら授業をすることができますが、当該パワーポイントのみで授業をしても問題ありません。

本章には2種類のシナリオがあり、一つめの「基礎編（本章Ⅲ）」は《講義型》、二つめの「ゲーム編（本章Ⅳ）」は《参加・体験型》です。「基礎編」と「ゲーム編」を2コマの授業で行うことが理想的ですが、二つのパワーポイントを組み合わせると1コマ授業で行うこともできます。

児童生徒数は、クラス単位などの比較的少人数から、大教室や体育館などでの大人数の場合まで対応可能ですが、「ゲーム編」を使用する場合はクラス単位の方が授業を行いやすいでしょう。

授業に取り組むにあたり、本書の「租税教育に取り組むにあたって（P3～）」や「学習指導要領について（P16～）」をぜひご一読ください。

▶ シナリオ例の概要

「基礎編」は、はじめに、税の使い道を具体的に紹介して税に親しみを抱かせ、税の意義・役割を理解してもらいます。次に、公平感を念頭に、税には約50もの種類があり、様々な集め方の税が組み合わさっていることを説明し、最後に税が決定される仕組みを説明し、主権者としての社会参画意識を抱いてもらい授業を締めくくります。

「ゲーム編」は、児童生徒が税の意義・役割をある程度理解している前提で作られています。

主題の「税金を集めるゲーム」は、様々な税金の集め方の存在や、立場による「公平」の感じ方の変化、さらに互いの意見を重んじながら合意を形成していく過程を体験することで、国民主権・民主主義・租税法律主義の概念の理解につなげることを主な目的としています。

▶ 注意事項

本章のパワーポイントに使用されているイラストは著作物ですので、当該パワーポイント以外での使用（例えば、イラスト画像を抜き出してアンケートの挿絵に用いるなど）は禁止いたします。

本章に関連するファイル

- ・ 授業用パワーポイント（基礎編《講義型》）／（ゲーム編《参加・体験型》）
- ・ アンケート用紙（小学生用、中学生用、高校生用、教員用）（Word）
- ・ 本章のパワーポイントを使用したモデル授業ビデオ（視聴は税理士に限定されています。）

※日税連HP「租税教育」のページで公開していますので、ダウンロードしてご活用ください。日税連HP「租税教育」のページの開き方は、本書P9の手順をご覧ください。次のURLを直接入力して開くこともできます。

（<http://www.nichizeiren.or.jp/taxaccount/education/>）

II 授業時間モデル

「基礎編《講義型》」（本章Ⅲ）

テーマ	スライド No.	項目	内容及び目的	目安時間
導入	1	あいさつ・自己紹介	良い第一印象となるよう心がけ、児童生徒の気持ちを引きつける。あわせて講師である税理士がどのような職業か簡潔に紹介する。	5分
	2	税理士の仕事		
	3	税金について勉強していこう		
Ⅰ. 税金とは	4	税金？	公共サービス等の具体例を示し、税が必要な理由を考え、税が私たちのために存在し、私たちのために使われているということを認識させる。	10分
	5	納税と公共サービス		
Ⅱ. 税の役割	6-10	税の役割①（具体例）	また、日本の税の始まりから現在までの歴史を簡単に紹介し、かつては支配者により徴収されるものであったが、現在は主権者たる国民自らが納めているという変化を説明する。	
	11-13	税の役割②（クイズ）		
Ⅲ. 税の歴史	14	税の歴史		
Ⅳ. 税の種類	15	ライフイベントと税	主な税目が約50種類と多いことや様々な税金の集め方を紹介し、公平感の感じ方の立場による違いや意見の対立・合意形成の過程を知ること、社会の構成員として民主主義の仕組みを考えさせる。	25分
	16	税の種類		
	17-18	特殊な税		
Ⅴ. 公平な納税	19-24	税金の集め方		
	25-26	歳入・歳出		
	27	年間教育費		
Ⅵ. 税の決め方	28	国会		
	29	選挙、立法、課税		
結びに	30	授業のまとめ	主権者として、知識を持ち、自ら考えることの重要性を改めて伝え、授業を締めくくる。	5分
				45分

「ゲーム編《参加・体験型》」（本章Ⅳ）

テーマ	スライド No.	項目	内容及び目的	目安時間
導入	1	あいさつ・自己紹介	良い第一印象となるよう心がけ、児童生徒の気持ちを引きつける。あわせて講師である税理士がどのような職業か簡潔に紹介する。	5分
	2	税理士の仕事		
	3	「税キング」登場		
Ⅰ. ゲーム (税金を集める)	4-18	ゲーム	「ゲーム」を通して、公平感の感じ方の立場による違いや意見の対立・合意形成の過程を体感させ、社会の構成員として民主主義の仕組みを考えさせる。	25分
	19	選挙、立法、課税		
	20-25	様々な集め方と実際の税目		
Ⅱ. 財政の現状と 今後の課題	26	財政	財政赤字、少子高齢化等の課題に触れながら、主権者として租税立法のあり方や税の用途について関心を持つこと、公正な判断力を持つ国民になるよう自ら考えることの必要性を理解させる。	10分
	27	歳出		
	28	少子高齢化		
	29	歳入		
	30-32	公債残高の推移		
	33-35	借金を減らすには		
結びに	36-39	授業のまとめ	主権者として、知識を持ち、自ら考えることの重要性を改めて伝え、授業を締めくくる。	5分
				45分

※時間配分は目安です。

※授業の時間や内容に合わせて、スライドを取捨選択、あるいは基礎編とゲーム編を組み合わせるなどとして使用してください。

III 「税って何かな？」 パワーポイント版・基礎編 《講義型》

※授業開始前にパソコンやプロジェクターを準備し、スライドショーの最初の画面を出しておきましょう。

▶ 導入

〈このテーマは約5分〉

1 あいさつ・自己紹介



自己紹介

皆さんこんにちは。私は税理士の〇〇〇〇です。
 今日は皆さんと「税って何かな？」ということについて一緒に考えてみたいと思います。よろしくお願いします。
 どんな意見でもよいので、思った事をどんどん発言してください。

(自己紹介は、児童生徒との最初の接点です。明るく、元気に、さわやかに、児童生徒の気持ちを一気に引き付ける気構えで始めましょう。)

機材準備や資料の置き場所等の確認のため、授業開始の直前ではなく、余裕をもって学校に到着するようにしましょう。学校の先生の承諾があれば早めに教室に入り、クラスの雰囲気に馴染めるよう、児童生徒とコミュニケーションをとりましょう。

無理に盛り上げたり、笑わせたりする必要はありません。得意な方法で児童生徒の心を掴んでください。そして一緒に考え、誠心誠意伝えていくことを心がけましょう。)

 [クリック]で次画面へ

2 税理士の仕事



職業紹介

皆さんは「税理士」って聞いたことがありますか？どんな仕事をしているか知っていますか？

はい、皆さんよく知っていますね。仕事の内容は？

(発言を求める。)

はい、その通りです。／そこまでは分からないかな。

病気になったらお医者さん。勉強が分からないときは学校の先生。それと同じで、税金について分からなければ税理士に相談してください。

税理士は「税理士法」という法律で決められている職業です。主に商売をしている人や会社が、税金を計算して納めるお手伝いをしています。

(税理士職業紹介が租税教室の主たる目的ではありませんが、税理士について知ってもらうために、簡単でもよいので説明しましょう。)

 [クリック]で次画面へ

3 税金について勉強していこう



税に対するイメージ(問いかけ)

それでは、はじめに皆さんは税金と聞いて何を思い浮かべますか？それは良いイメージですか？悪いイメージですか？
 良いイメージを持っている人は、手を挙げてください。
 では悪いイメージを持っている人、手を挙げてください。
 なるほど、ではこれから皆さんと一緒に税金を考えていくうちに、どのようにイメージが変わっていくのでしょうか？楽しみですね。

(児童生徒の多くは、税に対してあまり良いイメージを持っていないかもしれません。授業を通して、税の大切さを理解できるようにしましょう。)



I. 税金とは

【I～Ⅲで約10分】

4 税金？



税金とは何か

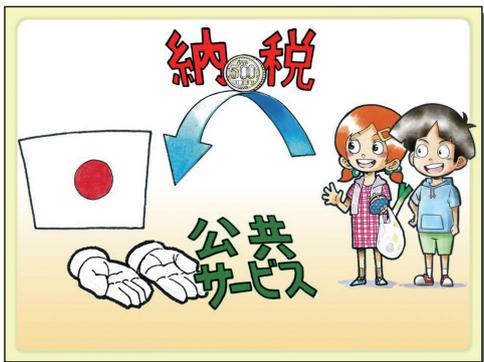
では、税金とは何かを考えてみましょう。
 皆さんが生きていくには最低限必要なものがありますね。それはどんなものですか？(誰かに発問する。)
 着るものや食べるもの、住む家などですね。これを衣食住と言います。でも、それらを得るにはお金が必要です。お金は働いて得ます。しかし、皆さんが生きていくうえで、お金を払っていないけれど利用している施設やサービスもあります。どんなものでしょうか？(発問)

学校・警察・消防・公園・道路・信号機・図書館・ごみ処理・市民病院…ほかにもたくさんあると思います。これらを公共サービスと言います。共通しているのは、みんなで使うものや、作るには多額のお金がかかるものであるということです。

(一般家庭では負担できないサービスなどについて、税金が使われていることを理解してもらいましょう。)



5 納税と公共サービス



税金は国民のために使われている

公共サービスを提供するために使われているのが税金です。
 税金は豊かで、安心して、安全で、健康に生きていくため、国民の皆さんのために使われています。



▶ II. 税の役割

6-10 税の役割①



税の役割(具体例)

例えば、国などが次のような施設などを、みんなから集めた税金で作ってくれなかったら、どうことが起きるでしょうか？

(税の使い道を理解させることで、税のイメージを上げていきましょう。ここでは、テンポが重要です。)

(順番に[クリック])



・火事になったのに消防車が来てくれなかったら？
(余裕があれば消防車だけでなく、救急車にも触れ、救急車の出動がもし有料化されたら、1回あたり約4万円かかることなどを伝えてもよいでしょう。)

・道路が穴だらけになって人も車も通ることができなくなったら？

・皆さんが通っている学校がなかったら？

・皆さんの出したゴミを回収してくれる人がいなかったら？

[クリック]で次画面へ

11-13 税の役割②



税の役割(クイズ)

皆さんが通っている学校で使っているものに、いくら税金が使われているのでしょうか？クイズを出しますので、考えてみましょう。(それぞれ自由発言)
(順番に[クリック])

・プール一杯の水道料金はいくらくらいでしょう？
——約24万円です。

・校庭のサッカーゴールはいくらくらいでしょう？
——約30万円です。

・人体模型はいくらくらいでしょう？
——約15万円です。

[クリック]で次画面へ

▶ III. 税の歴史

14 税の歴史



税の始まりから戦後の税制度まで

さて税金はいつからあるのでしょうか？（発問）

——租庸調

よく知っていますね。701年に制定された大宝律令ですね。でも実はもっと古くからあります。卑弥呼の時代には「作物」や「労働」で納めていたと、中国の魏志倭人伝という書物に書かれています。

（児童生徒の質問で多いのが「税はいつからあるのか？誰がつくったのか？」という疑問です。弥生時代からあること、支配者が国を維持するためのものだったことを伝えます。）

その後、年貢として主にお米を納め、明治時代になり地租改正が行われ、土地中心の課税制度が出来上がり、戦前・戦中は所得税が主体となった税制度にかわり、日本国憲法制定後、申告納税制度に基づく税制度が確立しました。

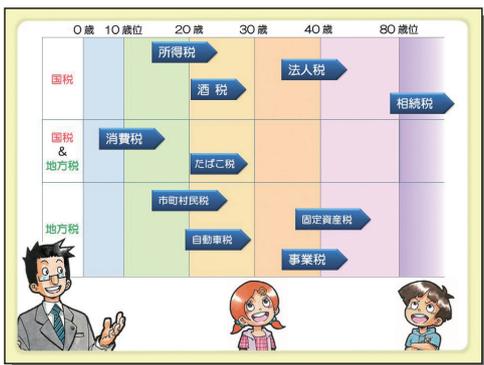
「申告納税制度」というのは、自分で税金を計算して、自分で申告して、自分で納める方法です。（現在の税制度になる前は、国や時の権力者が、国民から税金を取る（搾取する）仕組みでしたが、現在は国民が自ら税を計算し納める申告納税制度であることを伝えましょう。）



▶ IV. 税の種類

〈IV～VIで約25分〉

15 ライフイベントと税



人生の各場面でどのような税と関わるのか

（年齢ごとのライフイベントに沿って、税の種類を提示します。ここでは、税の種類を覚えてもらうのではなく、たくさんの種類があることを意識させることが大切です。同時にそれぞれの税の性質を理解してもらいましょう。「税の説明会」になってしまわないよう留意しましょう。）

それでは一体税金はどんな種類があるのでしょうか？皆さんが生まれてから亡くなるまでの間に、どんな税と関わるのかを、皆さんの一生とともに見ていきましょう。（順番に[クリック]）

皆さんは今〇〇歳ですね。もうすでに関わっている税金があります。消費税です。（児童生徒に一番馴染みのある「消費税」から始めます。）

次に18歳になると得られるものがあります。何でしょうか。はい、選挙権ですね。皆さんも、〇〇年後は選挙に参加できます。自分が、投票する権利のある人として選挙に参加して、しっかり国の代表者を選んでください。（主権者意識をしっかりと持つことの大切さを伝えます。）

他にも18歳になるとできることがあります。自動車の運転免許が取れます。免許を取ると自動車を運転することができます。もし自動車を所有した場合は、自動車税を納めます。

そして20歳になるとできることがありますね。お酒とたばこです。お酒には酒税、たばこにはたばこ税がかかります。

(特定のもの(たばこ・酒・自動車・不動産)を持ったり消費したりすると課税されることを伝えます。)

また、アルバイトや就職してお給料をもらうようになると納める税金があります。所得税です。地方自治体へは市町村民税などを納めます。

(給料天引きの源泉徴収制度について伝えます。)

30歳になって独立して会社をつくりました。その会社が払うのはどんな税金でしょうか。国税としては法人税、地方自治体には事業税などを納めます。

40歳になってマイホームを購入しました。家などの不動産を持っているとかかる税金は何でしょうか。固定資産税です。

そして寿命が尽きた時にたくさん財産を残しているとかかる税金があります。相続税です。

 [クリック]で次画面へ

16 税の種類



約50種類の税があることの意味

今、見てただけで10種類くらいの税金がありました。日本には主な税金は一体何種類あると思いますか？ (発問)

——20種類 / 40種類

——50種類

実は、日本の主な税金は約50種類あります。けっこう多いですね。なぜこんなにたくさんの税金の種類があるのか考えてみましょう。

(なぜ主な税の種類が約50種類もあるのかを考えてもらいましょう。児童生徒からは「たくさん集められる」「大勢の人から集められる」という答えが出てくるとおもわれます。ここでは、あえて答えは出さず、この後の「税金の集め方」の中で伝えます。)

 [クリック]で次画面へ

17-18 特殊な税



ヒゲ税

17世紀末、ロシアで制定。ヒゲぼうぼうの人がヒゲを剃えないと課された税金。先進的國家にすることをめざし、国民の職業改革のため、ヒョートル1世が件った。現在は廃止された。



ポテトチップス税

ハンガリーで肥満防止のために導入された塩分や糖分の高いスナック菓子やジュースに対して課せられる。



トランプ類税

昭和32（1957）年、日本でギャンブル性の強いマーシャンは、トランプ、花札などに対して課せられた。平成元（1989）年に廃止。

ヒゲ税、ポテトチップス税、トランプ類税

余談ですが、世界の中では風変わりな面白い税金もあります。ヒゲ税、ポテトチップス税、日本でもトランプ類税という税金があったそうです。

（いろいろな「税」を調べてアレンジしてみてください。）



税に関する挿話

オランダには窓税という税金がありました。窓の数の多さで税金がかけられており、そのため、家の形が細長くなったそうです。

皆さんは「アンネの日記」を知っていますか？第二次世界大戦でナチス・ドイツのユダヤ人迫害から逃れるため、アンネ・フランクはこういった家の奥に隠れていました。そこであの日記を書き続けたそうです。



▶ V. 公平な納税

19 税金の集め方



税金の集め方(導入)

（立場の違いによって「公平感」が異なることを念頭に説明してください。）

先ほど日本の主な税金が約50種類あることを説明しました。なぜ50種類なのかを考えてみましょう。どうしてかな？

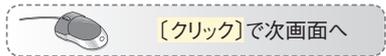
（発問）

——たくさんあれば集めやすいから。

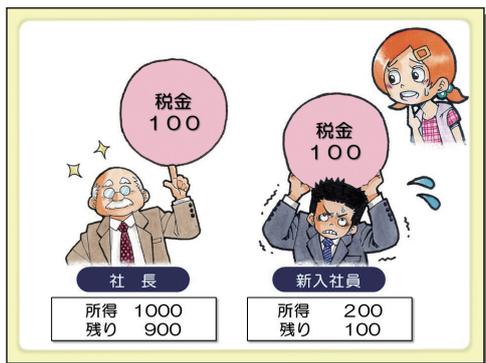
——たくさんあれば多く集まるから。

よいですね。みんな正解です。今度は、それをみんなで詳しく考えてみましょう。

税金の集め方には4種類あります。同じ金額で集める方法、特定の人負担する方法、同じ税率で集める方法、所得が多い人からは多く、少ない人からは少なく集めるという方法です。



20 税金の集め方①



同じ税額

まず、みんなで均一に集める方法です。
(順番に[クリック])

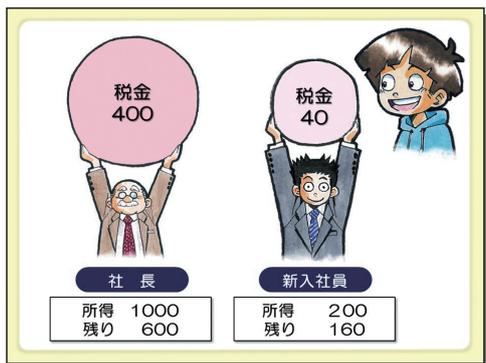
例えば消費税が挙げられます。もし買ったものが同じなら、所得の多い人も少ない人も同じ金額です。

これだとどうですか？集め方が平等に見えても、所得の少ない人の負担感が重く、均一だからといって公平ではありませんね。

(ここでは、「平等」≠「公平」ということに気づいてもらいます。「水平的公平」、「逆進性」の問題を意識してください。)

[クリック]で次画面へ

21 税金の集め方②



同じ税率

そこで負担能力に応じた公平な税の集め方があります。
(順番に[クリック])

所得の多い人には、より高い税率で負担してもらい、所得の少ない人には低い税率で負担してもらうものです。支払能力に応じた公平な負担をするルールなので「応能負担の原則」といいます。

この図では、社長さんが40%、新入社員の方が20%の割合で負担していますね。

(「応能負担」、「垂直的公平」、「累進税率」、「所得税の考え方の説明」、「所得の再分配」について意識させてください。)

[クリック]で次画面へ

22 税金の集め方③



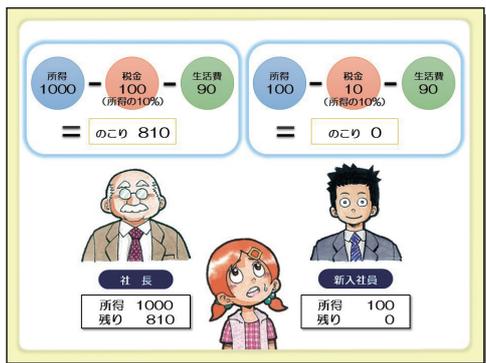
水平的公平

税金における公平の他の考え方として、同じ経済力の人には同じ負担になるような「水平的公平」という考え方があります。

所得が同じであれば税金負担も同じ金額という考え方です。
(「法人税」は、この「水平的公平」という考え方に基づいています。)

[クリック]で次画面へ

23 税金の集め方④



同じ税率と負担感

所得の多い1000の人と所得の少ない100の人とでは、同じ税率であってもその負担感がまるで違います。
(順番に[クリック])

税率が10%だった場合、所得の多い人の税負担額はいくらですか？ (発問)
——100です。

はい正解です。それでは所得の少ない人の税負担額はいくらですか？ (発問)
——10です。

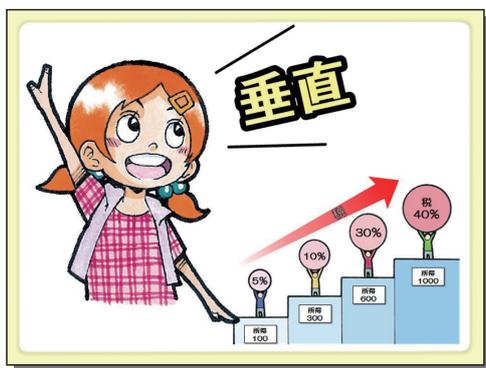
では、この人たちが生活するために90必要であったらどうなりますか？ (発問)
——所得の多い人は、810残り、少ない人は残りません。
そうですね、同じ税率でも負担感は全然違いますね。少ない人は他のことにまったくお金を使えません。

もう分かった人もいるかもしれませんが、所得の多い人と少ない人とで、なるべく不公平感をなくすにはどんな方法が考えられますか？ (発問)
——所得の多い人には高い税率で、少ない人には低い税率を使うことです。

はい、正解です！
(所得(立場)の違いによる「公平感」の感じ方について、同じ税率であっても所得が異なると負担感が違うことを伝えましょう。)

[クリック]で次画面へ

24 税金の集め方⑤



垂直的公平

経済力のある人にはより高く、少ない人には低くすることでバランスのとれた負担感になりますね。このように負担額を変え、バランスを取る考え方を「垂直的公平」といいます。
(パワーポイントと説明によって「公平感」の擬似体験ができるようにして、説得力を高めましょう。)

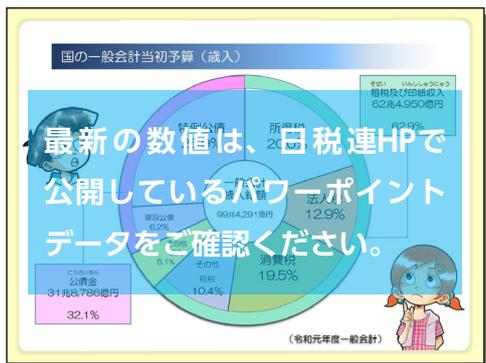
日本の所得税は、この「垂直的公平」という考え方を取り入れた「累進課税」という方法を採用しています。

先ほど、集め方に四つの方法がある話をしました。「水平的公平」と「垂直的公平」を組み合わせることで、立場や所得の違いによる不公平感をなくし、できるだけ公平に集めることを考えています。その結果、約50種類もの税金があるのです。

(社会には様々な立場の人がおり、できるだけ税を「公平」に集めるために約50種類あることを伝えます。)

[クリック]で次画面へ

25 歳入



税金と国債

次にこうやって集めた税金をどのように使っているのか、見てみましょう。

(順番に[クリック])

令和元年度の国の収入内訳はこの通りです。一般会計の歳入(国の収入等)の合計は約99兆円で、税金等による収入が67兆円、公債金による収入が32兆円です。

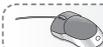
公債金とは、国債と言い、国の借金です。だから、税金は収入の約68%しかありません。残りはほとんど借金でまかっているという、大変厳しい現状です。

(この数値は、日税連HPに公開しているパワーポイントに合わせて変更してください。)

(「財政赤字」、「少子高齢社会」など、現在の日本が抱える課題に触れながら、民主主義・国民主権の見地から「税」や「政治」について関心を抱き、児童生徒が自ら考えるきっかけを作ることが大切です。

児童生徒に過度な不安を抱かせないため、政府が問題解決に取り組んでいることを説明します。

児童生徒一人一人が自分の国の問題としてどうあるべきか、どうすべきか、関心を持つことが必要であり重要だと伝えましょう。)



[クリック]で次画面へ

26 歳出



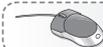
社会保障、債務償還

(順番に[クリック])

国が1年間に使うお金を歳出と言います。歳出の内訳を見ると、社会保障費など国の事業のために34兆円を使っており、借金の返済と利払いで24兆円も使っています。

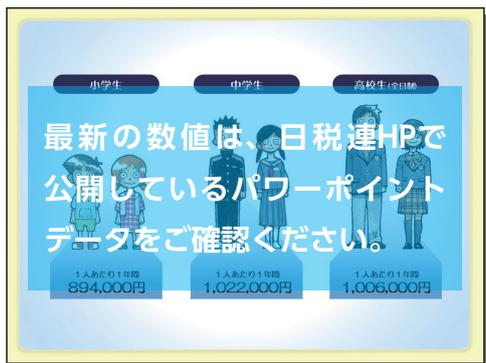
問題点は、今後の社会保障費の増加です。またその担い手である働く世代が少子化により減少している実情が、問題を難しくしています。

(巨額の公債残高がここまで放っておいた私たち大人の責任であることや、「税」と「社会保障」の一体化改革、マイナンバー制度による行政の効率化と不正の排除、少子高齢社会と社会保障費の増大などをイメージして説明します。)



[クリック]で次画面へ

27 年間教育費



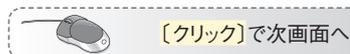
小中高の教育費

(順番に[クリック])

皆さんが学校に通ってることが出来るように使われている税金は、公立の学校では、1人あたり1年間で、小学生894,000円、中学生1,022,000円、高校生1,006,000円(全日制)となっています。

日本の将来の担う皆さんのために、これだけ税金が使われているというのは、この国の期待のあらわれなのです。

(児童生徒が「この国の未来を担う国民」であることを伝えましょう。)



▶ VI. 税の決め方

28 国会

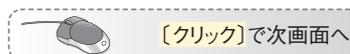


税はどこで決まるのか

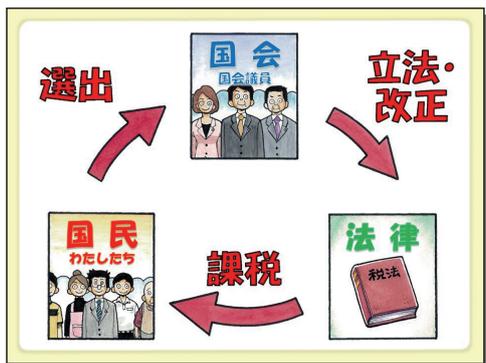
ここまで皆さんと一緒に考えてきた税金。約50種類あることや、国民から税金を公平に集める方法、仕組みについて勉強しました。ところで、税金はどこでどうやって決めるのでしょうか？(発問)

——国会です。

はい正解です。



29 選挙、立法、課税



税に関する挿話

税金はすべて「税法」という法律によって定められています。「税法」は、選挙によって選ばれた国民の代表である国会議員の多数決により国会で決められます。

(図に沿って、流れを丁寧に説明しましょう。)

国民の代表である国会議員が決めた税金のルールである「税法」は、結果的に国民が決めたルールということになります。自分たちで決めたルールだから、自分たちが守らなくてはいけませんね。

皆さんも18歳になったら選挙権を持ち、主権者として、そのルール決めに参加することになります。社会の構成員の一人として、積極的に社会に関わり、「税金」に関する政策について自分の意見を述べる力を身につけてください。

(児童生徒に「主権者意識」をしっかり持つことの大切さを強調してください。「国民主権」・「民主主義」・「租税法律主義」を考えてもらい、将来選挙を通じて積極的に社会参画することの重要性を理解してもらいましょう。)



[クリック]で次画面へ

▶ 結びに

〈このテーマは約5分〉

30 授業のまとめ



授業のまとめ

皆さんと一緒に考えてきた「税金」ですが、イメージは変わりましたか？

みんなで決めたルールで集めて、みんなのために使われるもの、それが「税金」です。

「税金」を通して社会を考え、積極的に社会に参加して、自分たちの国は自分たちで作っていくという意識を持って勉強して、自分の考えや意見をしっかり発言できるような社会人になってください。

今日の租税教室が、そのことを考えるきっかけになってくれれば嬉しいです。どうもありがとうございました。

(単に「税」を納めるのではなく、「税」を通して社会の仕組みを考え積極的に社会参画する主権者意識の醸成が、私たち税理士が行う租税教育の主な目的です。)

IV 「税って何かな？」 パワーポイント版・ゲーム編 《参加・体験型》

※授業開始前にパソコンやプロジェクターを準備し、スライドショーの最初の画面を出しておきましょう。

▶ 導入

〈このテーマは約5分〉

1 あいさつ・自己紹介



自己紹介

皆さんこんにちは。私は税理士の〇〇〇〇です。
 皆さんは「税」という言葉にどのようなイメージを持っていますか？身近にあるのに、いまひとつよく分からない。税とはそんなイメージではないでしょうか。今日は、そんな税について税理士である私(たち)と一緒に考えていきましょう。

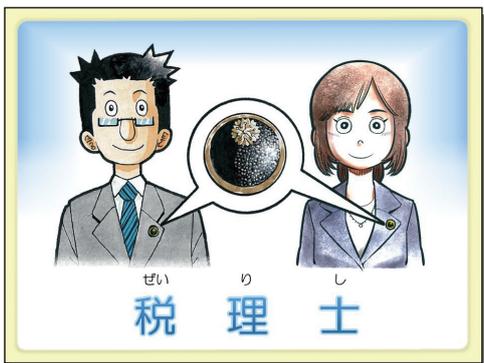
(自己紹介は、児童生徒との最初の接点です。明るく、元気に、さわやかに、児童生徒の気持ちを一気に引き付ける気構えで始めましょう。)

機材準備や資料の置き場所等の確認のため、授業開始の直前ではなく、余裕をもって学校に到着するようにしましょう。学校の先生の承諾があれば早めに教室に入り、クラスの雰囲気に馴染めるよう、児童生徒とコミュニケーションをとりましょう。

無理に盛り上げたり、笑わせたりする必要はありません。得意な方法で児童生徒の心を掴んでください。そして一緒に考え、誠心誠意伝えていくことを心がけましょう。)

 [クリック]で次画面へ

2 税理士の仕事



職業紹介

皆さんは「税理士」って聞いたことがありますか？どんな仕事をしているか知っていますか？

はい、皆さんよく知っていますね。仕事の内容は？

(発言を求める。)

はい、その通りです。／そこまでは分からないかな。

病気になったらお医者さん。勉強が分からないときは学校の先生。それと同じで、税金について分からなければ税理士に相談してください。

税理士は「税理士法」という法律で決められている職業です。主に商売をしている人や会社が、税金を計算して納めるお手伝いをしています。

(税理士職業紹介が租税教室の主たる目的ではありませんが、税理士について知ってもらうために、簡単でもよいので説明しましょう。)

 [クリック]で次画面へ

3 「税キング」登場



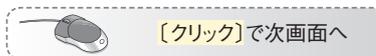
登場人物の紹介

これから一緒に勉強するキャラクターを紹介します。男の子がタイチくん、女の子がユミちゃん、そして右にるのが先生です。

先生が、今日は頼もしい仲間が来てくれたと話していますよ。
(順番に[クリック])

紹介します。「税キング」です。たくさん出てくるから楽しみにしててくださいね。

(補助講師がない場合は、「税キング」を補助講師のように扱うのもよいでしょう。)



I. ゲーム (税金を集める)

〈このテーマは約25分〉

4 ゲームを始めよう



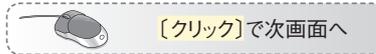
ゲーム開始

皆さん、準備はいいですか？それでは、ゲームを始めましょう。ゲームをしながら、税の集め方について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

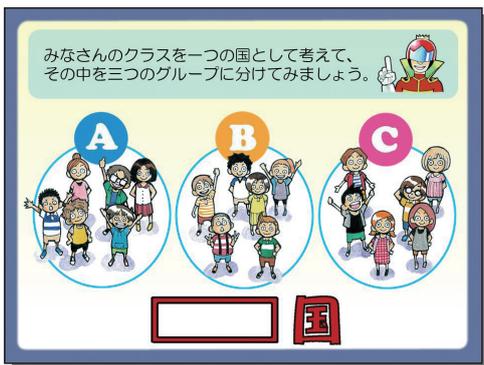
(この「ゲーム編」は、税の集め方についてのゲームから始まりますので、児童生徒が、税の重要性・必要性をある程度理解している(説明を受けている)ことが前提です。)

ゲームの目的

- ① 「税を公平に集める」ことを通して社会を考え、それぞれ立場が違う中で少数意見を大切に、対立の中から相手を重んじ合意を形成していく過程を体感すること。(公平と平等の違い、公平には様々な考えがある事、立場の違いによる公平)
- ② ゲームで体感した事を基に、約50種類もの税があるのは、立場の違う人達の公平性を保つためだと気付くこと。
- ③ 集め方決定の過程により、国民主権、民主主義、租税法律主義等を理解し、税は自らが社会参画し自分たちが決めていくものだと理解すること。(私たちが主人公)



5 ゲーム①



国名の決定とグループ分け

まず、このクラスを一つの国とします。名前をつけましょう。

— 国がいい！

みんなこの名前でよいか？では、この国の名前は国にしましょう。

それでは、三つのグループに分かれてもらいます。そしてそれぞれのグループで代表者を決めてください。

はい、決まりましたね。

[クリック]で次画面へ

6 ゲーム②



同じ所得の時の集め方(平等という考え方)

このA、B、Cの三つのグループそれぞれの稼いだお金、つまり所得はまずは同じだと仮定します。

さて、この国では、みんなが豊かに健康的に、文化的に、安心して安全に暮らすために必要な予算が300万円だとします。この300万円を皆さんからの税金で賄うことにします。

(時間があれば、税の使い道として、広い校庭、新しい校舎、遊具など、この国に必要なものを児童生徒に決めてもらうのもよいでしょう。)

そこで、300万円を三つのグループから集めるとしたら、いくらずつ集めればよいでしょう？

— 100万円ずつ！

早いですね！はい、100万円ずつ同額で集める方法がありますね。

(質問の回答が出なかった場合は、講師が100万円ずつですね、と誘導してください。)

この集め方は、みんな平等でしょうか？

— 平等だと思います！

本当かな？

(同額を集めることが「平等」という考え方からスタートします。この後に「平等」と「公平」の違いを説明するための導入部分ですので、時間をかけすぎないようにします。各グループの負担が100万円である事が「平等」であるかをしっかり確認してください。)

[クリック]で次画面へ

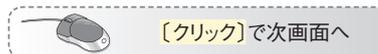
14 ゲーム⑤



公平に感じられる集め方とは

では、どのように集めればよいと思いますか？案がある人は、手を挙げてください。できるだけ「公平」に集めることを頭に入れて考えてください。

(「できるだけ公平」に集めるということを念頭に入れ、他の方法を児童生徒に考えさせてください。)



15-16 ゲーム⑥



同じ税率と段階をつけた税率

(順番に[クリック])

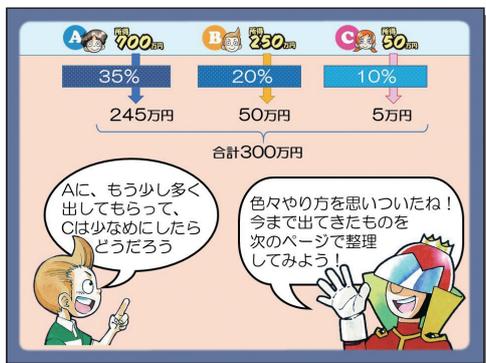
——持っているお金の合計が1,000万円で、集めるお金が300万円だから、みんな30%で集めたらよいと思います。

それでは、皆さんから30%ずつの同率で集めるのはどうでしょう？このようになりますが、これでいいですか？

——(Cグループ) これじゃあ暮らしていけないよ！

——Aグループはまだまだ余裕だよ、ずるいよ！

(30%と同じ結果となる、「14：5：1の比で…」と発言する場合も多いです。児童生徒の意見をよく聞き、異なる意見が存在することを確認するようにします。)



立場が変わったらどうですか？Aグループも来年はCグループのようになるかもしれないし、BグループやCグループが来年はAグループのようになるかもしれないですよ。自分のことばかり考えず、相手の立場も考えて、どのように集めたらよいか考えましょう。ほかにどのような集め方が考えられるでしょう。

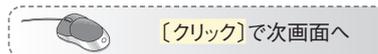
(所得を入れ替えたりして、立場を変えることで相手を思うこと(思いやり)についても考えさせ、立場が変われば公平の感じ方も変わるということに気付かせましょう。)

——余裕のないCグループを少なめにして、余裕のあるAグループがもっと出す方法があると思います。

——割合を変えたらどうですか？

(何も出なかった場合、余裕のないCは少なめにして、余裕のあるAにもっと出してもらう方法はどうか、などのヒントを出しましょう。)

平等には集めていないけれど、比較的納得感や公平感を感じる集め方に近づいた気がしませんか？ここまで出てきたやり方を整理してみましょう。



17-18 ゲームまとめ

	所得	同額ずつ	Aだけ	30%	累進課税
A	700万円	100万円	300万円	210万円	35%▶245万円
B	250万円	100万円	0円	75万円	20%▶50万円
C	50万円	100万円	0円	15万円	10%▶5万円
計	1,000万円	300万円	300万円	300万円	300万円

これだけ方法があるとどれが正解かわからなくなってきたぞー

国ではどの方法にしましょうか？みんなで話し合ってみましょう

	所得	同額ずつ	Aだけ	30%	累進課税
A	700万円	100万円	300万円	210万円	35%▶245万円
B	250万円	100万円	0円	75万円	20%▶50万円
C	50万円	100万円	0円	15万円	10%▶5万円
計	1,000万円	300万円	300万円	300万円	300万円

ゲーム終了(集め方の決定)

この他にはないでしょうか？自分で考えた集め方や、みんなからの発表で出た案をもとに、代表者を中心に、グループごとに集め方を話し合っ決めてください。

話し合う時に、みんなの意見を尊重して少数意見にも耳を傾けてください。集め方の正解はありません。どの方法でもかまいませんが、集め方の理由も考えてくださいね。

(もし他の考え方が出たら、黒板等へ書き出しましょう。)

[クリック]

※5分程度話し合う時間を取ってください。

それでは各グループの代表者は発表してください。

では代表者3人で話し合っ一つの方法に決めてください。できれば、どうしてその案になったかも発表してくださいね。

今回は〇〇の方法で集めることになりました。

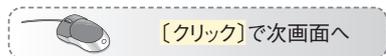
(代表者が集まり決定することが国会の開催にあたります。「対立」から「合意」に至る過程で、自らの意見と相手の意見の違いをよく考え、合意形成していく大切さを実感させ、少数意見を切り捨てないよう助言をしていきます。

税金は勝手に決められてしまうものではなく、「私たちが自分の考えで決めるもの」ということを実感してもらいましょう。(ゲームの目的の再認識)

話し合いや、多数決の結果、一つに決まらなかった場合、「集める方法」は、児童生徒の意見を尊重し、複数決めてもよいでしょう。)

話し合いや、多数決の結果、一つに決まらなかった場合、「集める方法」は、児童生徒の意見を尊重し、複数決めてもよいでしょう。)

(ゲーム終了)拍手等で必ず区切りをつけます。(児童生徒の気持ちをゲームから切り替えさせましょう。)



▶ II. 財政の現状と今後の課題

〈このテーマは約10分〉

26 財政



財政に関して(導入)

最後に日本の「財政」のことをお話ししたいと思います。簡単な言葉で言うと、国の「お財布」のことです。

では、集められた税がいくらになって、どれくらいのお金が使われているのかという日本の財政の状態について見てみましょう。

(財政赤字や少子高齢社会であることなど、現在の日本が抱える課題に触れることで、国や国の財政、税金の用途等について関心を抱かせましょう。)

危機感を煽ることではなく、公正な判断力を備えた国民として成長できるよう、児童生徒が自ら考えるようになるきっかけを作ることが目的です。)

[クリック]で次画面へ

27 歳出



日本の歳出

(順番に[クリック])

令和元年度の国の財政(一般会計予算案)は、税の使い道、つまり、みんなが豊かに健康的に、文化的に、そして安心して安全に暮らすために、警察や消防、病院、学校、防災、宇宙開発等に使われるお金が約99兆円になっています。

一番使われているのは何かな？
——社会保障！

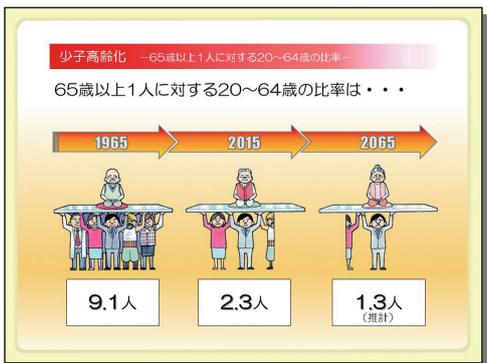
そうだね。少子高齢化という言葉は聞いたことあるかな？

(■の数値は、日税連HPに公開しているパワーポイントに合わせて変更してください。)

(時間がある場合は、費目ごとにどのようなことに使われているか、掘り下げて説明しましょう。身近な例と結びつけて紹介すると児童生徒が理解しやすくなります。)

[クリック]で次画面へ

28 少子高齢化



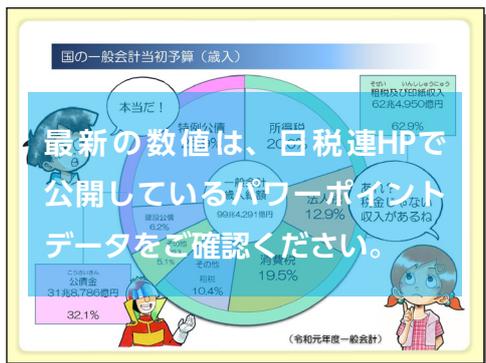
労働人口の推移

1965年では65歳以上のお年寄り1人に対して20歳から64才位は9.1人であったのに、2050年にはお年寄り1人に対し1.2人で支えることになると言われています。

(少子高齢化や他の社会問題等についても触れてみましょう。)

[クリック]で次画面へ

29 歳入



日本の歳入

（順番に〔クリック〕）

今度は収入を見てみましょう。さっき必要なお金、支出額は99兆円といたしましたね。

でも、みんなが出し合うこの国の税金は約58兆円しかないのです。必要な金額のうち、60%程度ということですね。

（一人一人が自分の国の問題として、今後どのように解決していくのか関心を持ってもらうことが重要です。それによって、主権者として積極的に社会参画する意識を持つことができるようになるでしょう。（私たちが主人公））



30-32 公債残高の推移



公債残高

（順番に〔クリック〕）

では、足りない分はどうしたのでしょうか。それは借金によって賅われているのです。今、日本は税金で集まるお金より使うお金の方が多いために借金が増え続けています。

（児童生徒に過度な不安を抱かせないために、「借金を減らす努力をしています」という言葉を加えて、問題解決に取り組んでいることを伝えるとよいでしょう。）



897兆円って想像できますか？富士山で例えてみましょう。

1万円札を重ねていくと、100万円です約1cmです。富士山が約3,776mですから、3,776億円分ですね。1万円札で897兆円分ということは、富士山をいくつ分でしょう。

富士山約2,375個分、地上から8,968です。国際宇宙ステーションが地上から400kmですから、遥か彼方ですね…。

では、この問題を解決するにはどうしたらよいでしょうか？（発言を求める。）



33-35 借金を減らすには



国債を減らすにはどうすればよいか

借金を減らすには、税金を増やすか、使うお金を減らす必要があります。

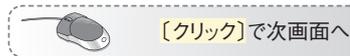
どちらも簡単なことではないし、他に良い方法があるかも知れません。でも皆さんにすぐにでもできることがありますよ！

(順番に[クリック])

みんなで意見を出し合って、考えていかないといけないですね。とても難しい問題ですが、私たち一人一人が主人公、つまり「主権者」として考えなくてはなりません。

皆さんが考えた意見を、話し合ったり行動に移したりしていくことが、日本の社会を支える民主主義なのです。

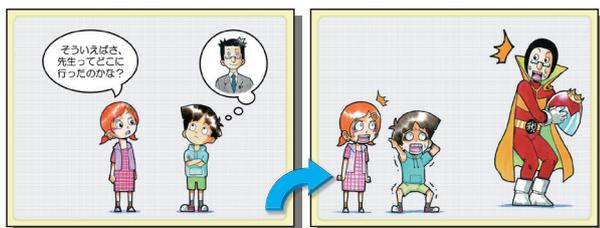
(ゲームで「この国に必要なもの」を児童生徒が決めた場合、それが本当に必要なものであったかをもう一度話し合う事により、税の無駄遣いについて考える事ができます。)



▶ 結びに

〈このテーマは約5分〉

36-39 授業のまとめ



授業のまとめ

(順番に[クリック])

(締めくくりの重要なメッセージを伝える前に、一息入れましょう。)

これからの日本を支えていくのは、皆さんです。今よりもっと素敵な日本にするために自分たちがどうすればいいのか、今回の学習がそれを考えるきっかけになればと思います。

それでは本日の「税を通して皆さんと一緒に社会を考える学習」を終了します。ありがとうございました。

(社会を支える一員であることを自覚してもらい、様々な問題に関心を持ち、自分のこととして考えるきっかけを作ってください。)

